

## 「たのめの里」を訪ねて～両小野学園小中一貫教育懇話会～

平成 25 年 11 月 13 日

塩尻市・辰野町の境にある、両小野学園で行われた小中一貫懇話会に参加させていただきました。

両小野小学校と両小野中学校では、平成 23 年度から両小野学園として小中一貫教育に取り組み、また、文部科学省の教育課程特例校の指定を受けて「たのめ科」という教科外の学習を設けています。地域の方々の協力を得ながら、9年間を通して、故郷「たのめの里」の自然・歴史・文化などを学び、「思考力・判断力・表現力」を身に付ける取り組みです。

### 【公開授業】

メニューの一つとして、「小学生の1ヶ月間中学登校」があります。その名のとおり、小学6年生が、1ヶ月間、中学校に通って授業を受ける、という取り組みです。中学校には小学6年生が1ヶ月間通学するために、空き教室を利用した専用の教室が用意されているそうです。

今回、その1ヶ月間の中で行われた、「外国語授業」を見学させていただきました。

筆者の小学校時代には英語の授業はなかったため、「小学校6年生の英語の授業」がどんなものかピンとこないまま、授業見学に臨みました。

場所は、広めのランチルームで行われており、地域の方々を含め大勢が見学していました。

まず、先生の最初のあいさつが全て英語！そして、授業のテーマは、「世界の色々な時刻」でした。

最初に、デジタル教科書で大きな世界地図をスクリーンに映し、先生が指差すのを見ながら「〇〇（都市名）は今何時ですか？」「今〇時です」という英会話をリスニングします。



次に、カードを用いたゲームを交えながら1～60までの数字を英語で言う練習をします。「60までの数字が言えれば、時間を言うことができますからね」と、先生。なるほど・・・とても実用的です。

最後に、教室を動き回りながら世界の都市の時間を聞き合うゲームをしていました。子ども達がとても楽しそうで、積極的に時間を聞き合っているのが印象的でした。

中学校という場所は小学生にとっては異空間、いわば「アウェー」な場所であるようなイメージだったのですが、やはり1ヶ月という長い期間通っているからか、小学生の皆さんは物怖じすることなく、いい意味でリラックスして授業に取り組んでいるようでした。



積極的に授業に取り組んでいます。



時間を聞き合う元気な声が、教室中から聞こえてきました

## 【実践報告・分科会】



授業見学のあと、「たのめ科」の取り組みについての実践報告をお聞きしました。

小・中学校行事を一体化し、職員会議や教員の研修を合同で行うなど、連携を図っている様子が伝わってきました。また、地域の方に講師として来ていただいて地域の歴史や自然を学ぶ授業、地域の施設での職場体験の様子など、地域の中での学校の姿を発表していただきました。

また、「地域社会における自分のあり方や課題・困難に対峙する力を養う学習」である「アントレプレナーシップ教育」に取り組んでおり、地域活性化のための課題を見つけ、分野ごとにグループに別れて情報を収集し、企画を立案し、中間発表・練り直しを重ねて文化祭で発表しているとのこと。

非常に長期間に渡る学習ですが、社会に出てからも必要な問題解決能力・発想力やコミュニケーション能力などが養われる経験ができるのではないかと思います。

その後、両小野学園の学校支援ボランティアの方や、見学に来ていた他校の先生方、市町村教育委員会の方などを交えての分科会に参加させていただき、様々な角度からのご意見をお聞きしました。ここに掲載しきれないのが残念なのですが、「学校側として地域の方に参加していただくためにどのように仕組みを作っていくのか」、といった視点からの意見や、地域の方から「地域としてはどのように関わっていけばよいか」などの意見が出され、積極的な議論が交わされていました。

## 【最後に・・・】

今回訪問させていただいて、子ども達の能力を引き出すためにはどんなことに取り組めばよいか、真剣に考え、様々な取り組みを実践・検証していることが伺えました。小学校から中学校までの9年間一貫して、地域や学校全体で子ども達を育てていくという意気込みの一端を垣間見ることが出来た気がしました。

最後になりましたが、突然のお願いにも関わらず、私の訪問を快諾してくださった両小野学園の皆様に深く感謝申し上げます。

(文責 教育総務課 西加奈永)